

C K U F S K J C F L M M I T

Together Now!

Vol.76

2022 Spring

知覧オンラインバスツアー



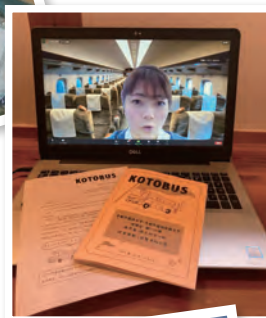
委員交流会

保証人同士が観光・食事・体験教室などを通じて交流を図るために行われる委員交流会。今年度は、12月11日に鹿児島・知覧方面へのオンラインバスツアーが開催され、22名（うち大学職員3名）が参加しました。当日は、参加者の皆さんがご自宅のパソコンやスマホの前にスタンバイ、各自ZOOMにて参加しました。ツアープランナーの進行のもと、鹿児島までの移動車中で自己紹介や、鹿児島にちなんだクイズも行われ、交流を深めました。現地では実際にガイドさんが観光地を巡り、紹介してくれました。テレビドラマの撮影地にもなった武家屋敷をめぐり、知覧茶畑から平和公園へと移動。ガイドさんの気持ちの込められた当時のエピソードを聞きながら、平和の大切さを考える良い機会となりました。

（広報部会 高口祐子）



旅行会社から事前に届いた旅のしおりや、鹿児島と知覧の特産品



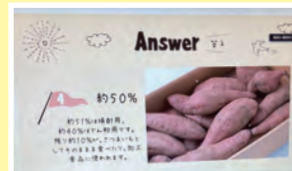
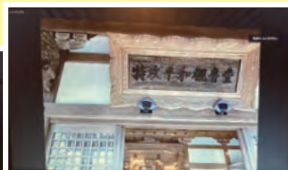
ツアープランナーの“えみちゃん”



知覧平和公園

オンラインバスツアーのパンフレット

Online bus tour



01

交流会に参加して...

オンライン南九州旅行.....予想を遥かに超えて楽しむ事ができました。事前配布の特産品はどれもおいしくかつ山盛り、知覧平和公園は心の込められた素晴らしいガイド、LIVE音声・動画・コミュニケーションも円滑に進み、あっという間の1時間半でした。

（書記 春名友宏）

02

交流会に参加して...

初めての経験でしたが、ツアーガイドの方がリアルタイムで現地を紹介くださるので、リモートでも大変楽しめました。知覧は特攻隊で有名な所で、ガイドの方も涙を浮かべながらお話されていたが、私自身も悲しい歴史は繰り返してはいけないと心の底から思いました。

（運営部会長 瀬野桂子）

新しい「多文化間交流」の萌芽

国際貢献学部グローバル観光学科 副学科長
原 一樹 教授



2018年4月に国際貢献学部が開設され、本年度で無事、完成年度を迎えることができました。グローバル観光学科の第一期生の皆さん、卒業おめでとうございます。この間、2019年には日本を訪れるインバウンド観光客数が3000万人を突破し、その経済効果も大きくなってはいたわけですが、2020年初頭からの全世界を覆うコロナ禍により、特に国際的な観光交流が一時停止している状況が続いています。ただし他方で、デジタル化が更に進む今後の世界において、様々な文化・国籍の人々が実際に顔を合わせ、交流しつつお互いを理解しあうことの重要性が寧ろ高まっているのも、揺ぎ無い事実です。アフターコロナの時代においては、サステナビリティに考慮したより質の高い観光が世界的に求められており、国内外で、新たな観光の形を模索する取り組みが活発に進められています。第一期生

の皆さんは、国際貢献学部の重要な教学内容の一つであるコミュニティエンゲージメントプログラムについては、オーストラリアやグアムなど、海外での実習が実施できました。その後の専門ゼミ、就職活動や卒業論文・卒業研究については、コロナ禍の大きな制約の中、各自が精一杯の努力を尽くされました。結果として第一期生の進路は、宿泊産業や商社、情報関連産業、公務員など、グローバル観光学科の幅広い教学内容を反映し、非常にバラエティ豊かなものとなりました。気候変動、技術革新、グローバル資本主義の展開等を要因とし、今後の世界では絶えず想定を超える出来事が生じられると思いますが、卒業生の皆さんには、広い視野と学びを続ける意欲、変化を恐れない心、ポジティブに自分の持ち場で社会に貢献しようとする志を持ち、ご健闘いただければと期待しています。

外国人留学生奨学金授与式

学業に励む外国人留学生を
後援会で応援!

12月9日、2021年度の外国人留学生給費奨学金授与式が行われました。今回5名の学部留学生が採用され、うち国内にいる4名の学生に採用証書が後援会会長より授与されました。奨学生代表のイ・ジュンヒョクさんは、「京都外国語大学の学生として胸を張れる人になっていきたい」と今後の抱負を述べると、棚野会長は「今回の奨学金を有効に使っていただき、これからも勉学に励んでください」と奨学生代表を激励しました。



受験料
実質

¥0

ゼロ!

後援会では“年、1人2回”

語学検定試験受験料

全額助成しています



【問い合わせ先】ランゲージセンター(4号館3階) TEL.(075)757-8204

編集後記

昨秋には収束が期待された新型コロナウイルス感染症は、本稿作成時には変異株の猛威で第6波の渦中にあります。一日も早い収束を祈るばかりです。さて、感染防止対策として広くリモート授業・ワークが導入され、多様な生活様式・価値観が醸成されました。後援会委員交流では初の試みとなる南九州オンラインバスツアーが開催され、宅配のお土産を手元に、ガイドさんの心の込められたお話等、リアルとは異なる

感動・満足とともに好評を博しました。コロナ禍が収束しても多様な価値観は継続するでしょう。今春卒業生とご家族にとっては、夢見た学生生活と異なり、進路選択でも苦労や悩みが多かったと存じます。一方、多様な価値観は多様なチャンスにつながります。「人間万事塞翁が馬」「ピンチがチャンスに!」コロナ禍の収束とHappyな前途を祈念して編集後記といたします。

(広報部会 鶴村和正)



koenkai@kufs.ac.jp

ご意見をお寄せください

お問い合わせはこちら

